

2016年5月23日

日 本 銀 行

月例経済報告等に関する 関係閣僚会議・資料

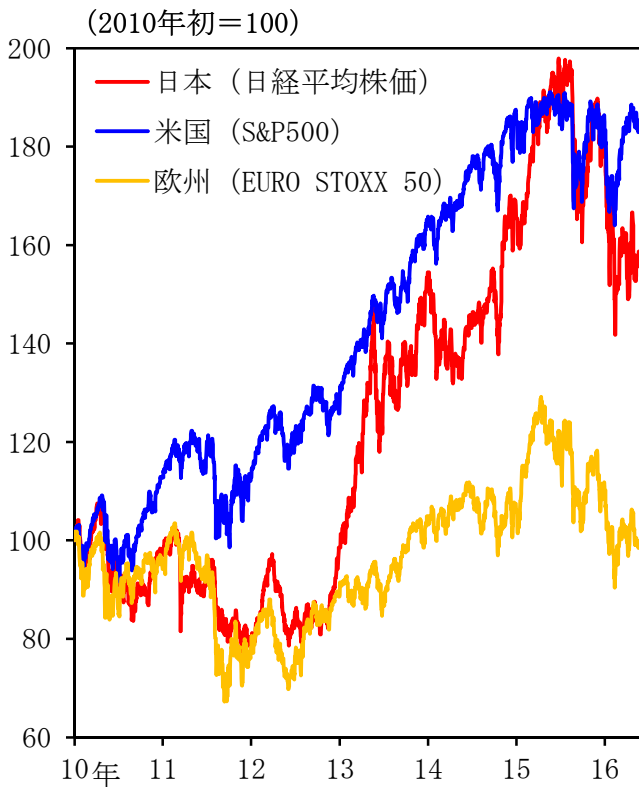
—— 最近の金融資本市場の動き ——

1. 株価

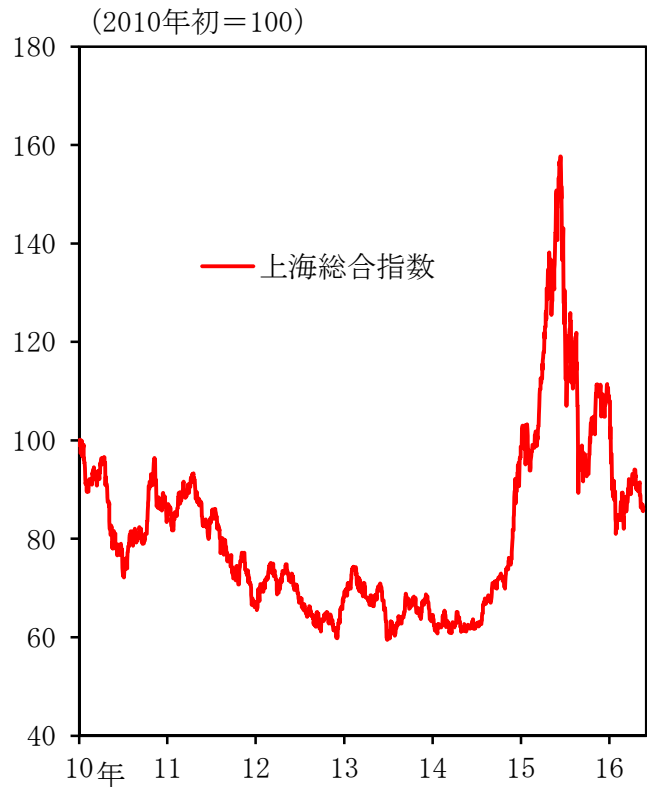
(1) 日経平均株価



(2) 主要国の株価

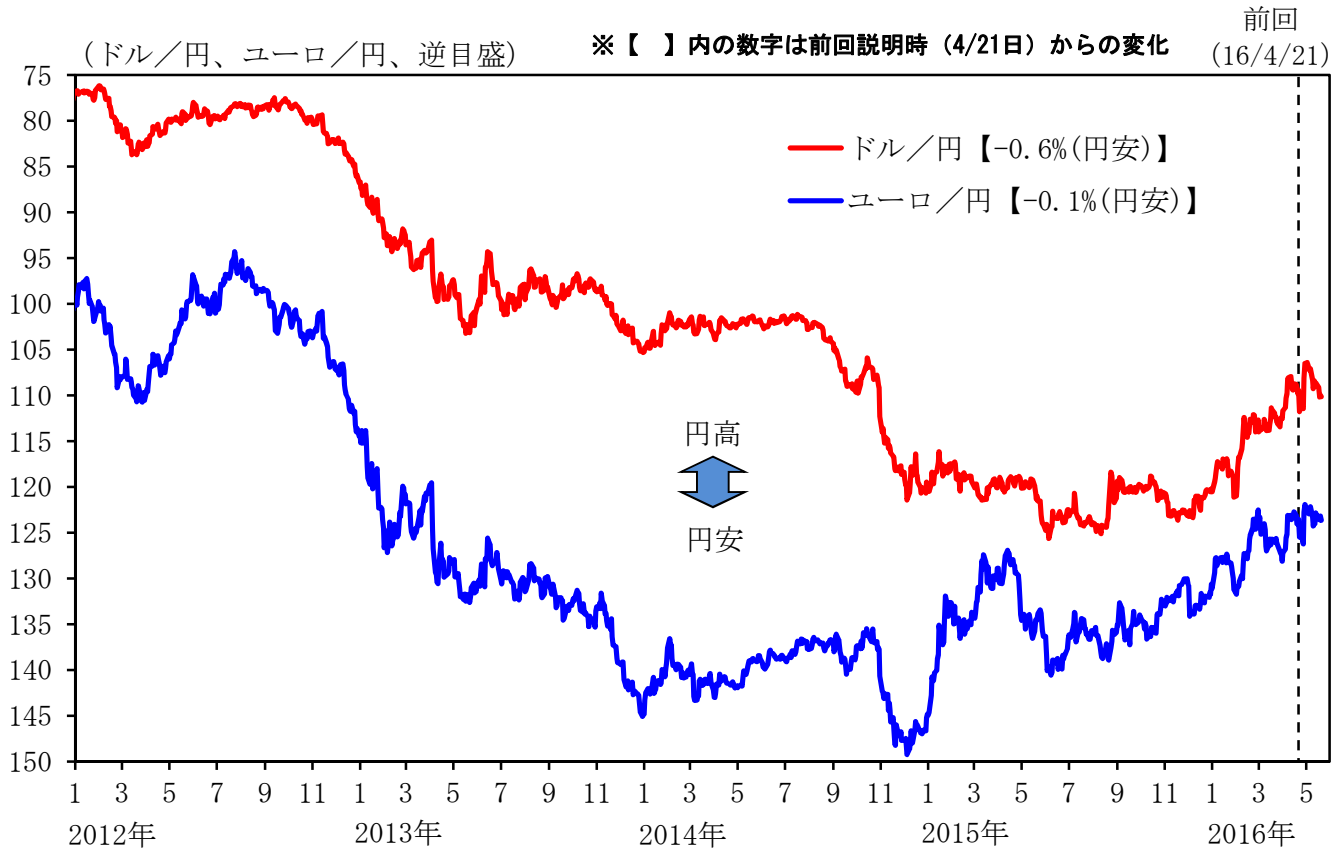


(3) 中国の株価

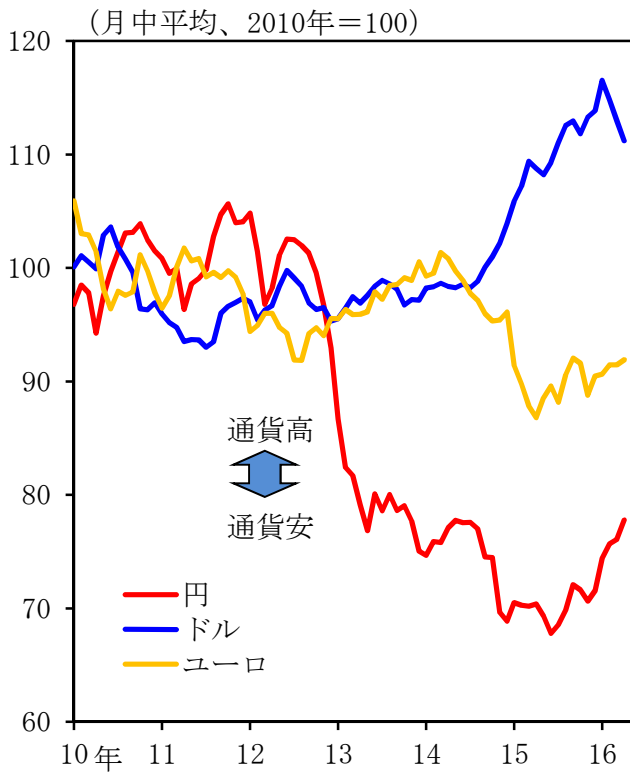


2. 為替相場

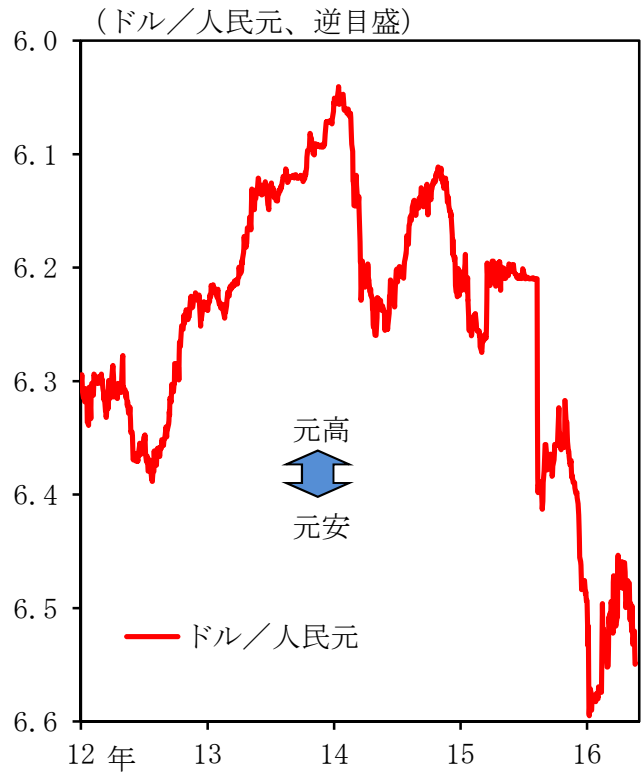
(1) ドル円・ユーロ円相場



(2) 実質実効為替レート

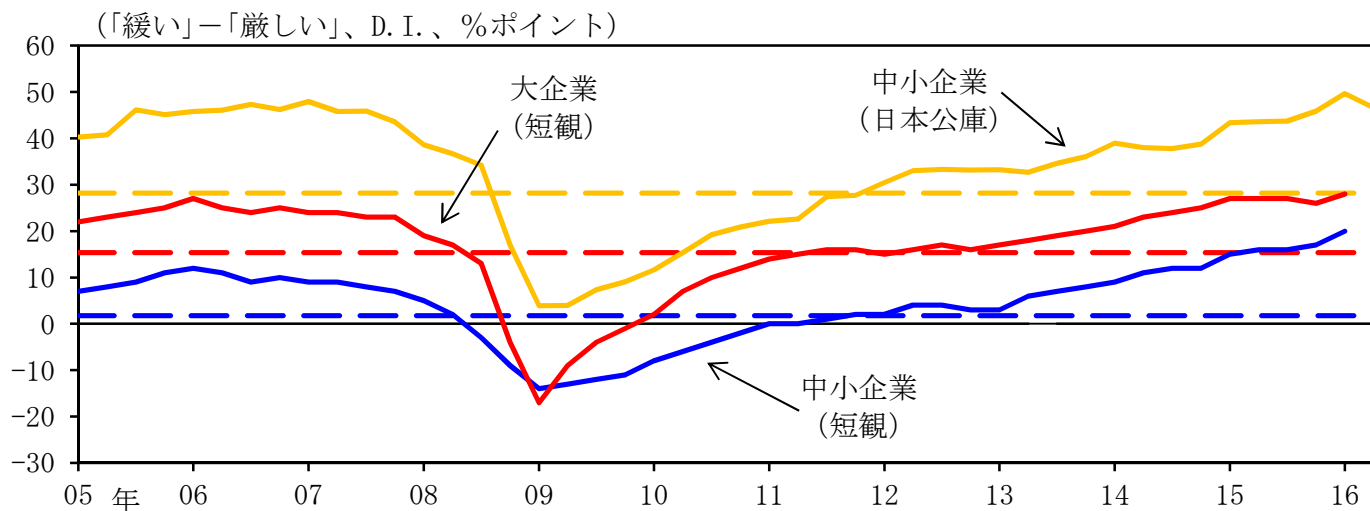


(3) 人民元相場

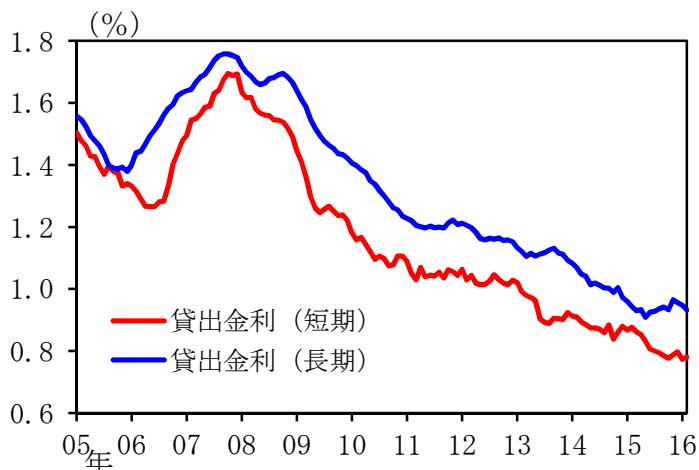


4. 国内の金融環境

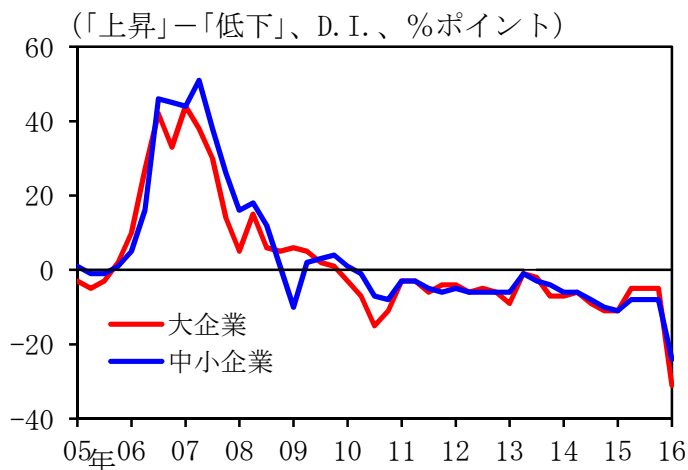
(1) 企業からみた金融機関の貸出態度



(2) 貸出金利

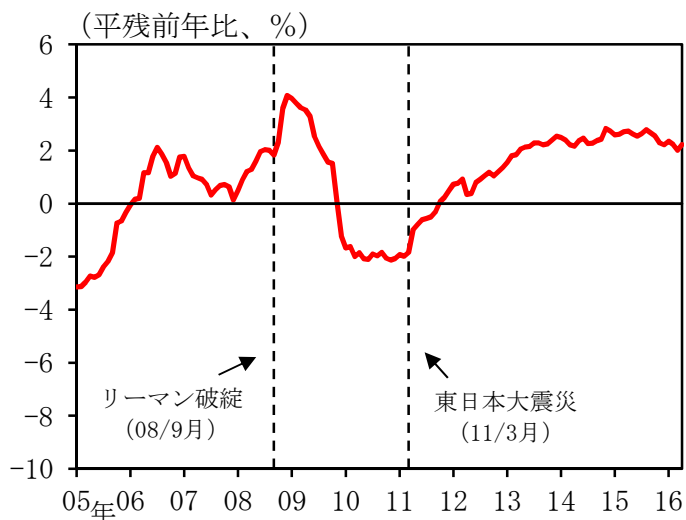


(3) 企業からみた借入金利水準 (短観)

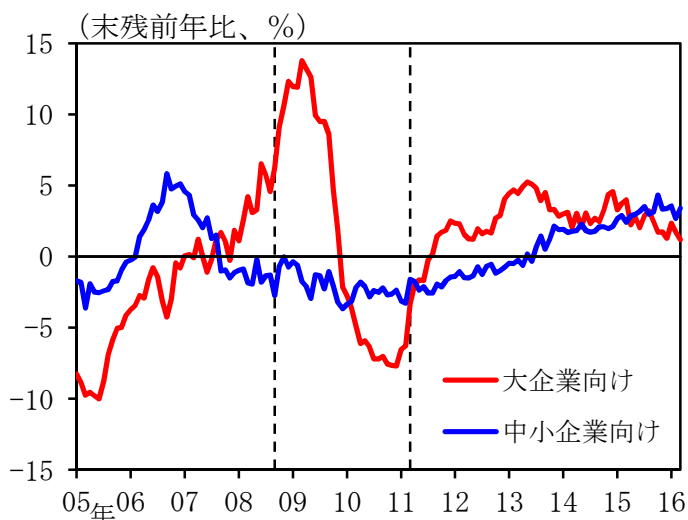


(4) 貸出残高

① 民間銀行貸出残高

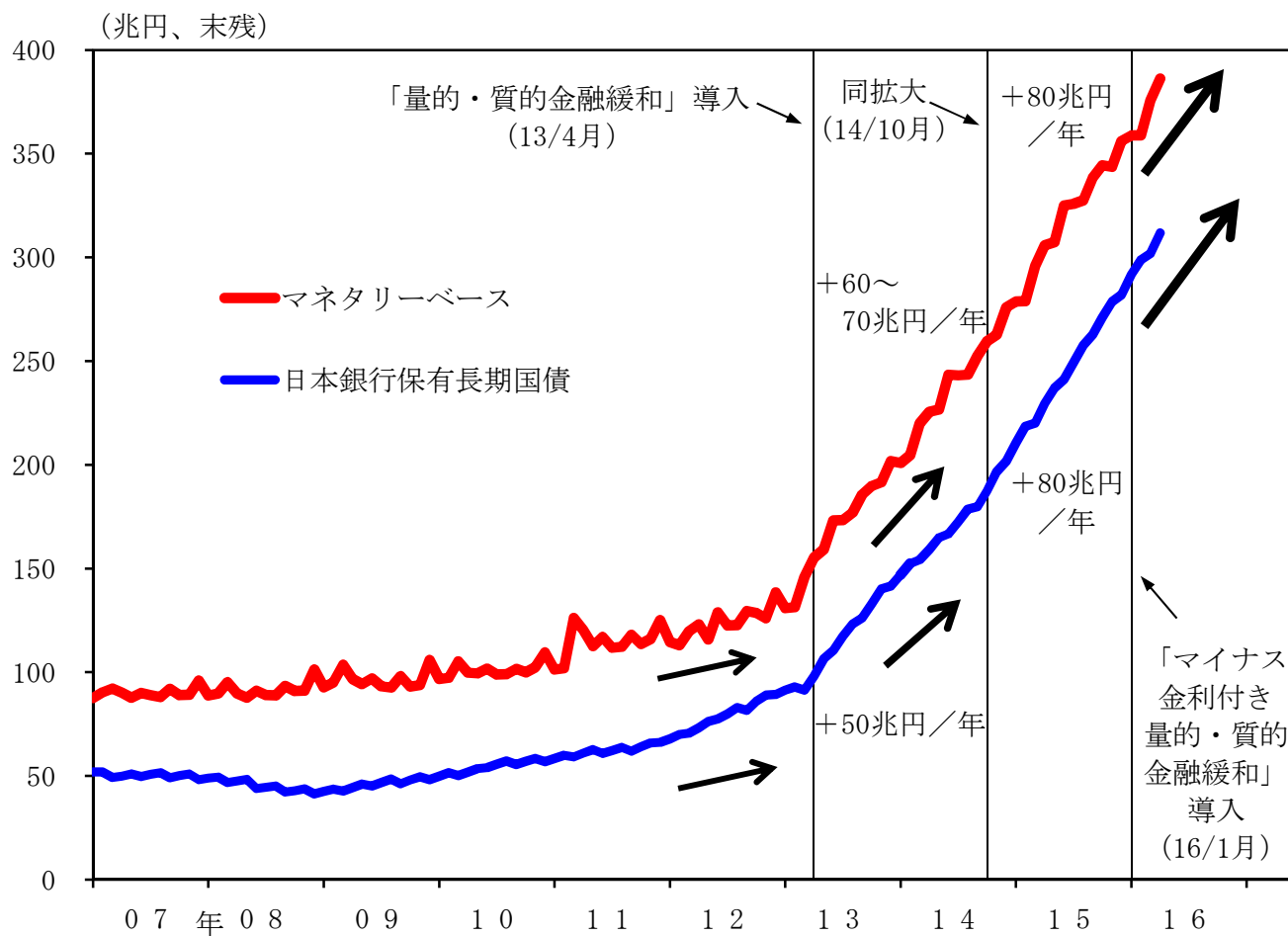


② 企業向け貸出の内訳



- (注) 1. (1) の点線は、2000年以降の平均値。日本公庫のD.I.は「緩和」-「厳しい」。
 なお、2016/2Qの日本公庫のD.I.は4月の値。
 2. (2) は、貸出約定平均金利(国内銀行、新規実行分)の後方6か月移動平均値。
 3. (4) ①の貸出残高には、企業向けのほか、個人向け、地方公共団体向け等も含む。

参考 1. マネタリーベースと長期国債保有残高の推移



(単位：兆円)

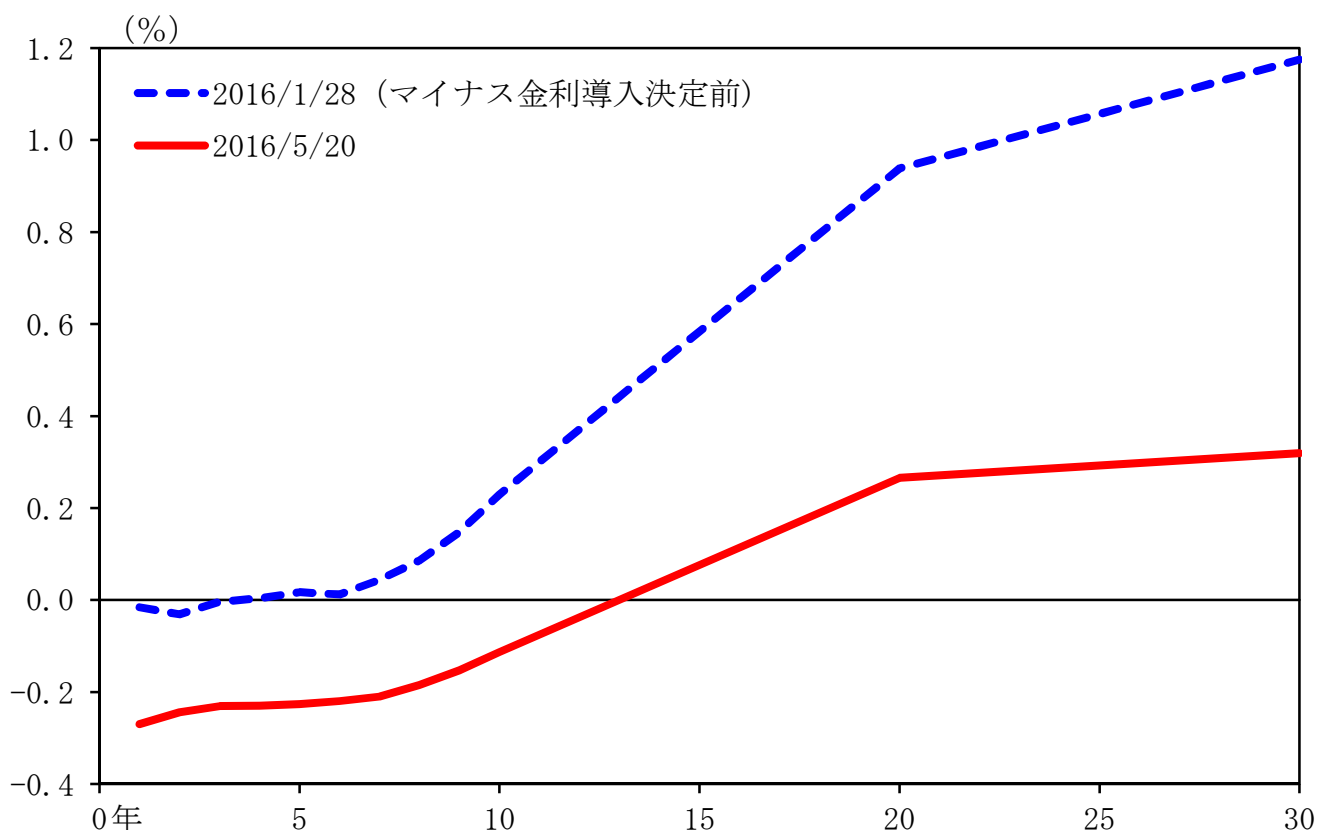
	13年末	14年末	15年末	16年4月末	今後の年間増加ペース
マネタリーベース	202	276	356	386	+約80兆円

(バランスシート項目の内訳)

長期国債	142	202	282	312	+約80兆円
ETF	2.5	3.8	6.9	7.8	+約3.3兆円
J-REIT	0.14	0.18	0.27	0.30	+約900億円

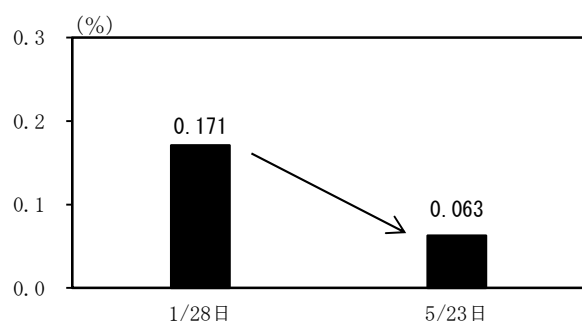
参考2. 「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」導入後の金利の動向

(1) 国債利回りの動向

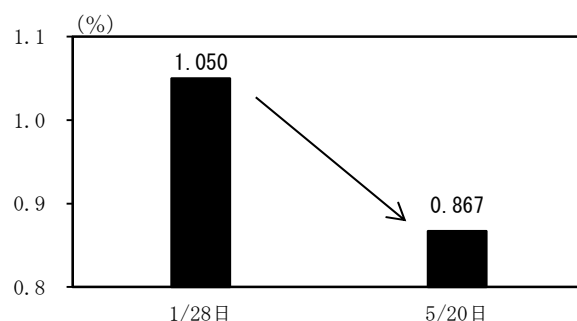


(2) 貸出のベース金利

① TIBOR (3M)

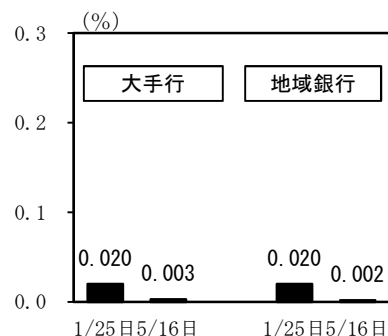


② 住宅ローン金利 (大手3行の平均、10年固定)

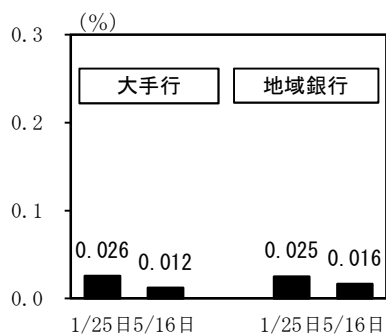


(3) 預金金利

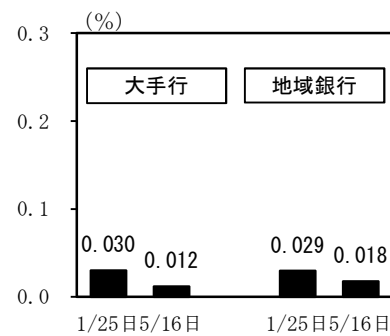
① 普通預金



② 定期預金 (1年)



③ 定期預金 (3年)



(注) 預金金利は、店頭表示金利の単純平均。定期預金 (1年・3年) は、300万円未満。
 大手3行は、みずほ、三菱東京UFJ、三井住友。大手行は、大手3行及び
 りそな、埼玉りそな、三菱UFJ信託、みずほ信託、三井住友信託、新生、あおぞらの10行。

参考3. 経済・物価見通し（展望レポート）

2016～2018 年度の中心的な見通し

【景気】成長率は、消費税率引き上げに伴う振れはあるが、基調として、潜在成長率を上回ると予想される。

—— 海外経済の減速に伴う輸出の下振れなどの影響から、幾分下振れ。

【物価】消費者物価の前年比は、当面0%程度で推移するが、物価の基調は着実に高まり、2%に向けて上昇率を高めていく。

—— 2%程度に達する時期は、原油価格が現状程度の水準から緩やかに上昇していくとの前提のもとでは、2017年度中になると予想。

—— 2016年度については、成長率の下振れや賃金上昇率の下振れなどから、下振れ。

▽ 政策委員見通しの中央値（対前年度比、%）

	実質GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げの 影響を除くケース
2015年度	+0.7	0.0	
2016年度	+1.2	+0.5	
(1月の見通し)	+1.5	+0.8	
2017年度	+0.1	+2.7	+1.7
(1月の見通し)	+0.3	+2.8	+1.8
2018年度	+1.0	+1.9	

※ 原油価格（ドバイ）は、1バレル35ドルを出発点に、見通し期間の終盤である2018年度にかけて40ドル台後半に緩やかに上昇していくと想定している。その場合の消費者物価（除く生鮮食品）の前年比に対するエネルギー価格の寄与度は、2016年度で-0.8%ポイント程度と試算される。また、寄与度は、2016年度後半にマイナス幅縮小に転じ、2017年央に概ねゼロになると試算される。

※ 2015年度の消費者物価（除く生鮮食品）は実績値。